



支援員養成講座5

発達障害と合理的配慮

学年に応じた配慮③



1



主な発達障害



2

自閉症スペクトラム障害(ASD)の特徴

- 見通しが持てない状況が苦手。
- 言葉をそのままの意味で理解するため、相手の意図の読み取りが難しい。
- 情報の整理が苦手。
- ノートの取り方にこだわる。
- 学習環境が変わると落ち着かない。
- 細かい間違いを指摘する。
- 状況把握が弱く、学習スタイルにもこだわりが強い



3

低学年における困難の特徴

- 活動に見通しが持てないと不安になる
- 情緒や行動の不適応につながる
- 興味・関心のあることにこだわりすぎる
- 次の活動に切り替えることができない
- 騒がしい教室や大きな音に敏感
- 学習に集中できない

授業のユニバーサルデザイン研究会(監修) 東洋館出版 授業のユニバーサルデザインを目指す全時間指導ガイド



4

中学年における困難の特徴

- 会話が一方的である
- 指示の内容を理解できない
- 教員の発問の意図や友だちの発言の意図が読み取れない
- 場に応じた対応ができない
- 学習の理解にアンバランスさがある
- 説明文は得意だが、心理解の問題は苦手

授業のユニバーサルデザイン研究会(監修) 東洋館出版 授業のユニバーサルデザインを目指す全時間指導ガイド



5

高学年における困難の特徴

- 想像力をはたらかせて考えることが難しい
- 文章から状況を想像できないため、心理解の問題が苦手
- ノートの取り方など、学習スタイルへのこだわりが強い
- 学習だけでなく生活にも支障をきたす
- 自信喪失傾向にある
- 自己肯定感の低下

授業のユニバーサルデザイン研究会(監修) 東洋館出版 授業のユニバーサルデザインを目指す全時間指導ガイド



6

学年に応じた配慮

見通しがもてるよう、授業前に今日の流れを確認する

興味や関心をひく、視覚的な教材を活用する

言葉かけは、短く・簡潔に・肯定的に行う

国立特別支援教育総合研究所「合理的配慮」実践事例データベース



学年に応じた配慮



特に高学年では、失敗体験の積み重ねにより、自己肯定感が下がる、学習性無力感などの二次障害が生じるため、配慮が必要です